

Toyota City Museum  
Of  
Local History

豊田市  
郷土資料館だより

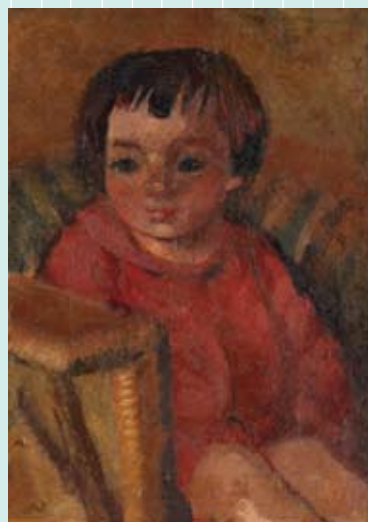
No.95

豊田市郷土資料館企画展

没後70年  
須藤しげるの世界



須藤しげる



「光子肖像」



「矢緋の女」



「南風の歌」

目次

企画展『没後70年 須藤しげるの世界』	2
名鉄三河線 猿投-西中金 廃線跡の思い出	3
民具調査だより21 春慶塗の折敷と八寸	4
とよた歴史マイスター活動報告	5
平成27年度事業報告	6・7
新収蔵資料紹介4 リードオルガン	8

企画展

# 没後70年 須藤しげるの世界

須藤しげるは、大正から昭和前期にかけて活躍した画家で、抒情画の優れた描き手でした。「抒情画」とは、憧憬や思慕、哀愁、憂鬱といった様々な心情や情緒を絵の中に表現したもので、見る人にも同じ感情を与える絵のことです。主に思春期に当たる少女たちを媒体にして表現された情緒描写であり、詩や小説の挿絵として、また口絵や表紙絵として描かれ、当時の少女たちを魅了しました。



若き日の須藤しげる

須藤しげるは、明治31年（1898）9月17日、拳母町（現在の豊田市）に生まれました。本名を須藤源重といい、商家の次男だったこともあり、自分の夢である画家を志しました。上京後、岸田劉生に油絵の技を受け、その後、日本画に転じて中村岳陵に学んだといいます。しかし、一点物の絵を描いて生計を立てることが困難であったことは想像に難くありません。大衆向けの雑誌が多く発刊されるようになっていた時代、しげるは生活のために抒情画を勉強し、挿絵画家として生きていくことになります。

『少女画報』の「花物語」（吉屋信子作）の挿絵を描いたのをはじめとして、『少年倶楽部』の「忠実な少年」「トナイザの鎖」（尾崎喜八作）、『少女倶楽部』の「君よ知るや南の国」（加藤武雄作）など雑誌に掲載された小説の挿絵を多く描きました。しげるは、『少女倶楽部』『少女の友』などの少女雑誌で活躍するほか、『少年倶楽部』『令女界』『婦人画報』などでも挿絵や口絵を描くようになります。また、西條八十や吉屋信子など、当時人気の高かった作家の詩や小説にも挿絵を描くことで、ますます脚光を浴び、人気挿絵画家の一人となりました。

しげるの絵を見ると、単なる挿絵という以上に画家の創意と感性が感じられ、挿絵画家というより、あくまで抒情画家としての立場を貫こうとしているように感じられます。しげるは、「抒情画と挿絵」（『須藤しげる抒情画集』国書刊行会）の中で「挿絵はその小説なり物語の内容を説明する絵」であって「明けても暮れても間に合わすために描く絵」であるため、「その絵の中にどれほどの美術的欲求が果たされ得るのか」、「画人としての向上欲をどこまで希み得るのか」といった葛藤の中で作品を描いていると書き記しています。



「ヒヤシンスの音楽」（『少女の友』口絵）

没後70年となる本年、しげるの描いた抒情画のみならず、油絵、日本画、デッサン画などを展示し、画家・須藤しげるに迫る展覧会を行います。郷土ゆかりの画家・須藤しげるを知っていただき、その魅力あふれる世界を感じていただければ幸いです。

（伊藤圭一）

会期：平成28年7月5日（火）～9月4日（日）

会場：豊田市郷土資料館 第2展示室

月曜休館（但し、祝日の場合開館）

入館無料

ギャラリートーク：

7月9日（土）、30日（土）、8月27日（土）

各日14時～



山間地の希望を乗せ 走り続けた 76 年

# 名鉄三河線 猿投—西中金廃線跡の思い出

豊田市山間部を走り抜けていたレールバスが平成 16 年に廃線となり、早 12 年を過ぎました。かつての利用者の一人としてその記憶を記します。

明治の文明開化以降、全国各地に鉄道が建設され、人々の移動が飛躍的に向上しました。この地方でも三河鉄道により、大正 9 年 (1920) 知立—挙母間が開通、大正 13 年 (1924) 挙母—猿投間が開通しました。そして、昭和 3 年 (1928) 今回紹介する猿投—西中金間に延伸されました。今程、重機が発達していない中で山間部の巨岩を退けて線路を敷設し、矢作川に鉄橋を架けるような難工事でした。しかし鉄道が我が地域にやって来るといふ地元住民の期待を受け、開通にこぎつけました。

その後、足助までの開通計画もありましたが、世界恐慌の影響を受け延伸はなくなりました。もし、香嵐渓まで鉄道が走っていたら、風景を楽しみながら移動でき、静岡の大井川鉄道のような観光資源の一つだったと思われれます。

三河鉄道は昭和 16 年に名古屋鉄道と合併し、名鉄の愛称で呼ばれるようになります。猿投駅から西中金駅まで全長 8.6Km、途中には豊田市運動公園に近い「三河御船駅」、木節粘土を採掘後運搬するための「枝下駅」、観光名所・広瀬やなに近い「三河広瀬駅」が設けられ、終点「西中金駅」は、足助に行くバスに乗換えるターミナル駅でした。戦時中、これらの駅から召集令状を受け取った一家の大黒柱のお父さんや、青年が乗車し、家族親戚は肉親の無事を祈って見送りました。見送られる人は、ふる里の風景を惜しみながら、別れを告げ戦地へ赴いたのです。

戦後、平和な世の中となり人々の通勤通学に利用され、女子学生にとっては鉄道を利用し、街中へ出掛けるのが楽しみの一つでした。また、縁あってこの地域に移り住んだ人は帰省に利用したり、子どもができたなら実家に孫の顔を見せるために乗車したり、車内ではよく地域の方に出会ったりして、短い乗車時間ながら気軽に声を掛け合える、山間地特有の雰囲気がありました。

時代の流れとともに、乗車率の低下に歯止めがかからず、猿投—西中金間は昭和 60 年に電車からレールバスに変わりました【写真 1、2】。知立駅—猿投駅間は毎時 4 本のダイヤに対し、猿投駅—西中金駅間は毎時 1 本のダイヤになってしまい、現代社会の時間を気にする者にとって、不便さが増していきました。また、豪雨・台風がこの山間地を襲い、幾度とこの鉄道に被害をもたらしました。昭和 47 年の 47 豪雨、平成 12 年の東海豪雨では鉄橋や土手が崩れて運行がストップするなど、困難が続きましたが、名鉄・行政・地域が献身的に協力し、代替バスを運行して懸命に復旧に取り組み、利用者に配慮してくれました。

しかし、利用者の減少と鉄橋等の維持管理の難しさから、平成 16 年 3 月 31 日をもって廃線が決定し、76 年の歴史に幕を閉じました。今、思い出されるのは車窓から見た風光明媚な景色や、暗闇の山中を、ひっそりとライトを照らしながら突き進んだ、車中でのワクワク感。自宅にいても矢作川の川面を伝わって定時に聞こえる車輪の響き。廃線決定とともに、全国から押し寄せた撮り鉄ファンで、車内が唯一満員になった時の事など、懐かしさは未だ消えません。

もうレールバスに再び乗車する事は叶いませんが、あの時代にできなかった事で叶えられる事もあります。それはレール上を歩き偲ぶ事です。平成 26 年 1 月に史跡めぐりを行った際【写真 3】参加者の方が言っていました。「この廃線から見る竹林は京都より素晴らしい…」と。確かに街中のけん騒から離れたここはレトロ感一杯で、風で揺れる竹林の音と矢作川の水辺が、私たちの心を落ち着かせてくれます。また、レールバスは走らないけれど、竹林の先に見える青空・未来へ向かって行く様です。いつか豊田市内唯一の廃線跡を訪れて下さい。そしてレールの上で目をつぶり、耳を澄ませば、きっと 76 年分みんなの思い出や歓声がレールの下から聞こえてきます…。(とよた歴史マイスター 田内 三男)



【写真1】三河線で唯一矢作川に架かる鉄橋



【写真2】山間地を走るレールバス。今は、道路が拡張し鉄橋もない。



【写真3】廃線周囲の竹林が神秘的な旧枝下用水第1水門から第2樋門へ向かう行路。(史跡めぐりにて)

しゅんけいぬり おしき はっすん  
春慶塗の折敷と八寸

今号では日々の暮らしの中で用いられる諸道具ではなく、茶席や客を迎える時など少々あらたまった場で使用される道具の紹介をしてみたいと思います。

懐石家具(かいせきかぐ)

懐石家具とは、懐石で用いられる<sup>わん ぜん</sup>椀や膳などをいいます。かつては椀や膳の類を「家具」と称しており、<sup>ぬし</sup>塗師の中で椀具・膳・重箱等を造る仕事にたずさわる人を「家具屋」と呼び慣らわしていたことから、懐石に用いられる塗物道具をこのような呼び方をするようになりました。懐石家具には、丸椀・折敷・両椀・煮物椀・吸物碗・八寸・飯器・杓子・湯桶・湯の子すくい・通盆・脇引などがありますが、ここでは春慶塗の折敷と八寸をとりあげます。

仕上げの状態を表しており、右写真のような包装紙に包まれていました。「椀物 鉦目 飛驒高山 杓目春慶塗 三枝屋新吉(まさもの かなめ ひだたかやま へぎめしゅんけいぬり さえぐさやしんきち)」



との書き込みがあります。[写真-A]も[写真-B]も、飛驒春慶塗の折敷ということになります。

春慶塗

漆の塗り仕上げの技法のひとつに、春慶塗があります。この春慶塗は木地に黄や赤の色付けをした上に、<sup>すきうるし</sup>透漆を塗って<sup>しらじ</sup>素地木材の肌の美しさを表したものです。応永の頃(1394~1428)、堺の漆工であった春慶が始めたと伝えられており、これを堺春慶といいました。飛驒高山の山打三九郎が延宝(1673~1681)の頃に出羽の能代で始めたと伝えられる淡黄色の能代春慶や、寛永年間(1624~1644)に金森宗和が漆工に作らせたという、淡褐色で木理の鮮やかに見える飛驒春慶が知られています。(東海民具学会 岡本大三郎)



[写真-A] W320 H27 D320 箱 W355 H185 D352



[写真-C] W242 H25 D242 箱 W270 H51 D273  
飛驒春慶塗の八寸。



[写真-B] W333 H32 D333 箱 W380 H215 D371

[写真-A]は箱書に、「飛驒 折敷 五枚」とあります。飛驒は生産地の飛驒高山をいい、折敷は箱の中身を表しています。一方[写真-B]の箱書は「飛驒 春慶」と記されており、生産地と中身ではなく、その物の漆仕上げの状態が書かれています。「春慶」は春慶塗の漆



[写真-D] W247 H21 D248 箱 W270 H60 D270  
能代春慶塗の八寸。



マイスター募集中!!

# とよた歴史マイスター活動報告

平成27年度から活動を始めた「とよた歴史マイスター」。59人（平成27年3月31日時点）の方が認定され、豊田市の歴史・文化財について学び、伝える活動を行っています。

## 主な活動内容

- ・ 小学校体験授業手伝い（古い道具の使い方を説明）
- ・ 講座手伝い（まが玉作り、拓本、古墳測量、よろい試着体験など）
- ・ 古文書写真撮影
- ・ 歴史資料（「猿投神社考」）の活字化
- ・ 豊田市の歴史紹介パネル（同英語版）作成
- ・ 五月人形の展示手伝い
- ・ 常設展、企画展、特別展の展示説明
- ・ 「豊田市郷土資料館だより」原稿執筆
- ・ 自主勉強会（豊田市の災害について学び、防災について考える会）

など



企画展の展示説明



小学校体験授業で古い道具の説明



古墳測量



まが玉作り



企画展関連  
発掘体験と土器パズル



喜楽亭での五月人形の展示

マイスター作成の豊田市の歴史紹介パネル



とよた歴史マイスターは現在も募集中です。次回の申込期限は10月31日。詳しくは郷土資料館へお問い合わせください。

パネルは地芝居サミットの会場（市民文化会館）に展示。全国の地芝居関係者に見ていただきました。写真は市長来場のところ。

# 平成27年度文化財保護事業報告

## 1 文化財保護審議会 3回

文化財の名称変更「三箇のシラカシ」 1件  
文化財防火デー：香積寺、六鹿邸、喜楽亭、永福寺

## 2 伝統的建造物群保存地区保存審議会 1回

## 3 埋蔵文化財

### 【調査の概要】

○有無の照会：住宅建設・開発の事前調査などに伴って文化財課へ埋蔵文化財の有無が照会されます。

照会件数 1,323 件（この内 236 件（前年比 +31）が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に該当）

過去の件数：24 年度 710 件、25 年度 1,300 件、26 年度 1,687 件

○届出：遺跡内での開発には文化財保護法により届出・通知が必要です。

- ・民間開発事業 102 件（前年比 +29）
- ・公共事業 30 件（前年比 +1）

表1 届出一覧

地区	民間	公共	主な遺跡
猿投	7	2	伊保遺跡、上小田古瓦出土地
拳母	36	5	拳母城（桜城）跡、瑞穂遺跡
高橋	35	3	高橋遺跡・寺部遺跡
松平	0	1	八升蒔遺跡
高岡	3	1	駒場瓦窯跡
上郷	7	3	上野下村城跡、高正館跡
藤岡	11	2	水汲遺跡、門口遺跡
小原	0	1	大福寺遺跡
足助	1	6	吉田遺跡、仏田遺跡
下山	2	1	代官屋敷 B 遺跡
旭	0	1	仲切遺跡
稲武	0	4	中沼遺跡
計	102	30	

届出のあった案件の中で確認調査・試掘調査等を 16 件実施しました（表2）。本調査は、住宅建設や区画整理事業に伴って 2 件実施しました（表3）。

表2 確認調査・試掘調査を実施した遺跡（一部）

遺跡名（所在地）	調査原因等	調査面積（㎡）
豊田大塚古墳（河合町）	保存整備	8.6
根川古墳（東保見町）	保存整備	773
寺部城関連遺跡（寺部町）	保存整備	2
上小田古瓦出土地（平戸橋町）	住宅建設	24
稲荷下遺跡（花園町）	区画整理	70
四郷地区（四郷町）	区画整理	229
寺部遺跡（寺部町）	宅地造成	14
飯盛城跡（足助町）	測量	480

表3 本調査を実施した遺跡一覧

遺跡名（所在地）	調査原因	調査面積（㎡）	主な遺構
寺部遺跡（寺部町）	住宅建設	160	竪穴建物
寺部遺跡 15A-G 区（上野町・寺部町）	区画整理	3,109	土坑・溝・竪穴建物跡



寺部遺跡 15B1 区全景

### ○発掘調査等報告書

- ・第 67 集『高橋遺跡北東区』
- ・第 68 集『寺部遺跡Ⅵ』
- ・第 69 集『寺部城跡・寺部城関連遺跡・勸学院文護寺跡・寺部遺跡』
- ・第 70 集『豊田大塚古墳Ⅱ』
- ・『平成 26 年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書』
- ・『名勝 龍性院庭園総合調査報告書』

## 4 文化財等保存維持・修理補助事業

- ・有形民俗文化財保存修理 8 件 [ 百々町の山車（百々町）ほか ]
- ・天然記念物財保存整備 5 件（田津原町のかやほか）
- ・有形民俗文化財保存維持 16 団体（喜多町山車保存会ほか）
- ・無形民俗文化財保存維持 31 団体（猿投町棒の手保存会ほか）
- ・伝統的郷土芸能保存維持 20 団体（西山万歳ほか）
- ・伝統的郷土芸能保存修理 3 団体（加塩町打囃子保存会ほか）
- ・郷土の先人顕彰活動 4 団体（鈴木正三顕彰会ほか）



## 5 史跡・名勝・建造物等整備・修理

- ・豊田大塚古墳石室覆屋建替工事
- ・史跡等看板更新（丸根城案内看板はじめ23件）
- ・旧松本家長屋門修復

- ・全国地芝居サミットinとよたを開催（市民文化会館、深見町磯崎神社） 1,350人

## 6 民俗芸能普及推進

- ・民俗芸能映像記録（平井八幡宮祭礼、堤町の山の講）

## 7 その他

- ・ニホンカモシカ滅失個体処理 25件

# ■平成27年度郷土資料館事業報告

## ■郷土資料館事業

### 1 展示・入館者数

平成27年度入館者数

24,958人

- ・特別展「家康の遺宝展」  
2/5～3/21 9,285人
- ・企画展  
「新修豊田市史考古Ⅱ 弥生・古墳刊行記念 この夏  
キミは考古学者になる」 7/4～8/30 2,586人
- ・企画展「歌舞伎衣裳の美」9/19～11/29 4,125人
- ・企画展  
「作って、直して、着る。～古い道具と昔の暮らし」  
12/19～4/3 5,200人
- ・ミニ企画展「郷土資料館のひなまつり」  
2/9～3/13 1,833人
- ・喜楽亭企画展「喜楽亭のひなまつり」  
2/13～3/13 1,378人



### 2 資料調査

- ・旧鈴木家古文書調査／民具調査

### 3 資料収集・複製・修復

- ・岸田吟香「英語手引草」「引札」「内藤政成公掛軸」
- ・牧野義雄『滞英四十年今昔物語』「川境争論裁許絵図」ほか購入
- ・「渡辺守綱鞍」修復／「須藤しげる日本画」表装

### 4 資料貸出件数

- ・他館・機関への資料貸出（写真含む） 277件

### 5 講座ほか

「こどもの日によろいを着てみよう」「まが玉づくり」「史跡めぐり」「特別展洋時計イベント」など8講座

延べ 1,046人

「ギャラリートーク」計11回 延べ 407人

### 6 とよた歴史マイスター活動

認定者59人 活動参加者 延べ 216人

### 7 とよた歴史検定

11月1日（日）実施（豊田市青少年センター）

上級 応募者27人 合格者13人

（平均点74.8点 合格率52%）

初級 応募者78人 合格者20人

（平均点68.6点 合格率28%）

子ども向け「とよた歴史検定」WEB版開設

### 8 郷土学習スクールサポート

- 利用学校数 延べ 180校、13,480人
- ・資料館・遺跡見学 延べ 73校、3,912人
- ・出前授業 延べ 50校、3,043人
- ・資料貸出 延べ 57校、6,525人

### ○地域学習サポーター、歴史マイスター

計56回 延べ117人



### 9 近代の産業とくらし発見館（郷土資料館分館）

平成27年度入館者数 13,923人

- ・企画展「発見館まゆまつり 2015」  
4/23～7/5 3,541人
- ・企画展「古橋源六郎暉兒」7/18～11/1 3,523人
- ・企画展「とよたの百年企業」  
12/8～2/28 3,245人
- ・ものづくり講座 「干支まゆ人形・申」ほか
- ・見学会「トロミル水車と瀬戸蔵ミュージアム」ほか
- ・ぶらコロモ（史跡めぐり）「運氣アップ編（まちなか百年企業入り）」ほか
- ・その他

開館10周年記念行事として、10年のあゆみの写真・講座作品展示、タペストリー織り、「ミライ塾」参加。



# リードオルガン

今回は、新しく収蔵品に仲間入りしたオルガンについて紹介します。

このオルガンは、高さ 99.3cm・幅 74.2cm・奥行 37.6cm、3 オクターブの音域というコンパクトなもので、リードオルガンに分類されます。リードオルガンとは、『広辞苑（第四版）』によると、「金属製のリードを有し、ペダルで動く一種の鞆（ふいご）から送られる空気によって発生する小型オルガン。19 世紀中ごろ考案され、わが国には明治時代、宣教師などによって伝えられ、広く普及。オルガンといえばこれを指したが、最近は衰退。」とあります。いわゆる足踏みペダルを踏むことで音が出る仕組みのオルガンです。明治時代に日本に伝わった際には、「空気＝風で鳴らす楽器」という意味で「風琴（ふうきん）」と呼ばれたそうです。今の若い人たちには馴染みがあまりないかもしれませんが、足踏みオルガンといえば、懐かしい思い出がある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、オルガンについて詳しく観察してみます。蓋を開けると鍵盤の上部には「YAMAHA ORGAN HAMAMATSU」の文字が見え、外蓋を外すと内側には「137691」というシリアルナンバーが刻印してあります。このナンバーから大正 8 年（1919）に製造された「ヤマハ製ベビーオルガン」であることが判明しました。このようなスタイルのリードオルガンは、明治 30 年頃から昭和の初め頃まで造られ、ロングセラー商品だっ



たようです。

鍵盤の蓋の部分には、「大正十年求之 松光院 日曜学校専用」と朱書きしてあります。「松光院」



という名称のお寺は現在豊田市内にはありませんが、調べてみると、市内の浄土真宗大谷派の寺院が昭和 10 年代まで使っていた名称であることが分かりました。また、「日曜学校」ですが、元々はキリスト教会で宗教教育を目的に子どもを対象として、日曜日に開く学校のことを指しましたが、大正期に真宗寺院でも同じように子どもを対象として日曜学校という名前でおこなわれていたようです。

並んだ鍵盤の真ん中辺りには鍵盤を白く塗りなおした補修の跡も見られ、このオルガンがよく使われ、大切にされていたことが伝わってきます。大正期のオルガンとしても、市内の寺院の日曜学校で使用されていたという来歴があるという意味でも、貴重な資料です。

（名和奈美）



## ■利用案内■

開館時間 9:00～17:00  
 休館日 毎週月曜日（祝祭日は開館）  
 入館料 無料（特別展開催中は有料）  
 交通案内 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩 10分  
 名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩 15分  
 愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩 15分  
 とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ 徒歩 5分  
 駐車場 約 20 台

## ●豊田市郷土資料館だより No.95

平成 28 年 6 月 30 日発行  
 編集・発行 豊田市郷土資料館  
 〒471-0079 豊田市陣中町 1-21  
 TEL.0565-32-6561 FAX.0565-34-0095  
 E-mail ● rekihaku@city.toyota.aichi.jp  
 URL ● http://www.toyota-rekihaku.com

※豊田市郷土資料館だよりは、HP でもご覧いただけます。